

# 多核種除去設備 サンプルタンクC 側面マンホール部の漏えい確認時の水の滴下について

<参考配布資料>  
平成26年3月26日  
東京電力株式会社

## <概要>

### ■ 状況

- 多核種除去設備(A)・(C)系を用いたサンプルタンクおよび配管の浄化運転を3月24日13時頃より実施。
- サンプルタンクCの側面マンホール部<sup>\*1</sup>の漏えいの有無を確認するため、当社監理員監視のもと水張りを実施していた。その際、同日18時56分に当該部より水の滴下を確認。
- なお、当該部については、サンプルタンクCの内部除洗のため、一時開放していたものであり、3月23日、当社監理員立ち会いのもと締め付け確認<sup>\*2</sup>を実施。

\*1：マンホール下端は床上約30cm

\*2：トルク 210N・m

### ■ 漏えい量

- 1秒に1滴程度の滴下を確認（再確認時、1秒に4,5滴程度）
- 滴下は堰内の養生内<sup>\*3</sup>であり、3月25日1時50分までに約8リットル漏えい

\*3：サンプルタンクC側面マンホールからの漏洩確認のため、事前に堰内に水受けを用意していた

### ■ サンプルタンクC内の水量

- 約60トン（水位：約50cm）

### ■ 漏えい水の放射能濃度

- 全ベータ核種濃度測定結果： $1.2 \times 10^4$ Bq/L

# 調査後の対応について

## ■その後の対応

- サンプルタンクC内に水中ポンプを設置し、サンプルタンクAに水を移送した結果、漏えい停止を確認（3月25日 1時50分）。
- マンホールを開放し、フランジ部の点検実施  
フランジ部にキズ等の異常は確認されなかった  
締付トルクは規定値で施工されていたことを確認したが、パッキンのはみ出し量が通常と比べて多い状態であることを確認
- フランジ部の点検実施後、マンホール復旧・閉止

## ■処理の再開〔3月25日〕

- 16時03分 多核種除去設備(A)系 浄化運転のため処理再開
- 16時05分 多核種除去設備(C)系 浄化運転のため処理再開

## ■推定原因

- フランジ締付に伴うパッキンのはみ出し量が通常と比較して多い状態であったが、規定のトルクで締付（当社立会実施）が行われており、かつ片締めにもなっていないことから、直接の原因であるかは不明。
- フランジ部にキズ等の異常は確認されていない  
⇒ 偶発的事象の可能性あり

# 時系列

---

## < 3月23日 >

13時頃 サンプルタンクC側面マンホール部締め付け確認

(トルク210N・m)

## < 3月24日 >

12時59分 (A)系を用いた浄化運転開始

13時00分 (C)系を用いた浄化運転開始。

18時56分 サンプルタンクC側面マンホールフランジ部より1秒に1滴の漏えいを確認

18時58分 (A)・(C)系について、循環待機運転に移行

19時頃 漏えい量を再確認したところ、1秒に4, 5滴程度

## < 3月25日 >

1時28分 サンプルタンクC内に水中ポンプを設置し水の移送開始  
サンプルタンクC サンプルタンクA

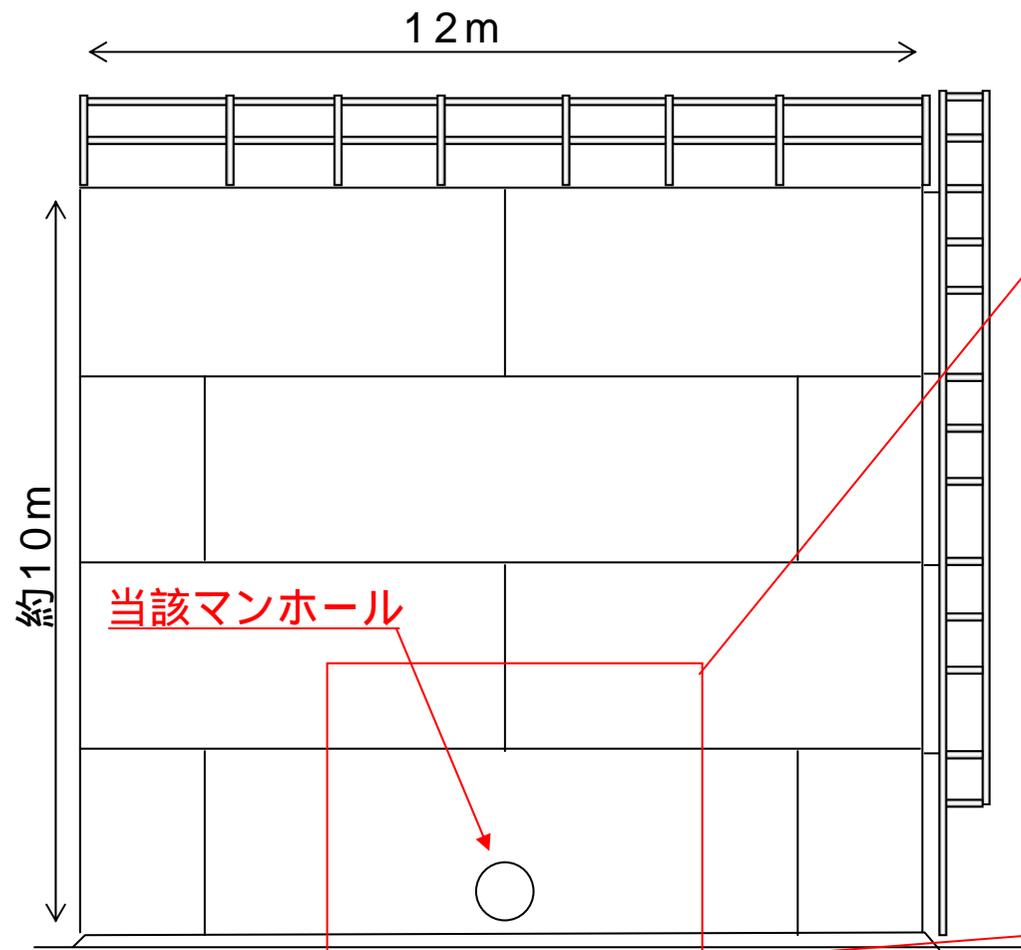
1時50分 漏えい停止

5時40分 移送停止(移送量約50トン),マンホールフランジ部の点検手入れ実施

16時03分 (A)系を用いた浄化運転再開

16時05分 (C)系を用いた浄化運転再開

## <参考> サンプルタンクC 側面図



サンプルタンクC 側面図



サンプルタンクC側面マンホール写真

マンホール大きさ： 830mm

以上